

審査委員長メッセージ 「日経ストックリーグ参加者の皆さんへ」

アジア開発銀行研究所長/慶応義塾大学名誉教授 吉野直行氏

(1) 「マクロ」と「ミクロ」の両面を見ること

それぞれの研究は、テーマ内容に合わせて、企業の内容を調べ、自らも企業訪問して中身を確認するなど、ミクロの研究では、素晴らしい内容が多かった。しかし、日本全体の企業の生産高と比較して、調べた企業の生産高は、どの程度の割合になっているのか、同じ業種全体と比較して、今回調べた企業の売上高は、どの程度の比率であるのかなど、マクロの視点からの数字も把握してから、それぞれの業種・企業の分析に進んでほしかった。

(2) 欧米・アジアなどの海外の生徒のことをもっと知ることが大切

海外の学校で講義や講演をして感じることは、世界中の同じ年齢の学生たちが、いろいろな学習をし、経験を積み重ねていることである。自分のクラスや同学年の友達だけでなく、アジアや欧米の同じ学年の生徒と、スカイプを通じて（無料で）、相手の顔を見ながら、お互いに議論し合うことが出来れば、アジアの生徒たちが、どのような生活を毎日送っているのか、それぞれの国の生徒が抱える悩みは何かを、話し合うことができ、皆さんの視野が、もっと広がると思う。「ジャンケン」や、日本独特の子供たちの遊びを紹介することも、海外の生徒は、喜び、興味を持ってくれるでしょう。4月は中国の生徒とスカイプでクラス全員が話し合う、5月はアメリカの学校と、6月はスウェーデンの学校と・・・簡単な英語を

第 15 回日経 STOCK リーグ 表彰式&懇親会

使って、発表をし合えれば、世界の生徒と、毎月、話ができるようになり、いろいろなことを知ることが出来ると思う。日本中の学校が、世界の同じ学年の生徒と交流できれば、お隣の韓国や中国とも、もっと親しくなれると思うので、ぜひ、進めていただきたい。簡単な挨拶は英語で行い、詳しい自己紹介や、自分の学校の様子など、英語で一生懸命に説明すれば、世界の生徒の生活も分かり、視野が広がると思う。お隣の国である韓国のことをもっと理解し、中国ともっと親しく付き合うことは、将来の日本にとっても重要である。(やってみたいという学校があれば、アジアや欧米の学校との交流の紹介を致します。)

(3) 自分の周りの企業や農業を知ることと、それを全国に紹介することも大切

「ふるさと納税」「ふるさと投資」など、地方のことをもっと考えて、日本全体の経済が回復することが必要である。外国に目を向けると同時に、自分の地元にも目を向けてほしい。地元にも、潜在的に成長が出来そうな企業や農家もたくさんある。全国レベルの企業に目を向けるばかりでなく、地元の特色ある農家や中小企業の活動も見て、資金が地方に流れるように、「ふるさと投資ファンド」なども見てほしい。新しいアイデアを持つ農家や中小企業が地元があれば、自分の地域の企業が成長できるように資金を集め、作った物が、日本全国に販売できるようにインターネットで紹介し、成長できるように手助けができれば、地元の雇用促進にもつながる。生徒たちが、日本国内の他の地域の同じ年齢の生徒と、**インターネットで会話し、地元の生活や地元企業を、日本の他の地域で生活する生徒に紹介できる。地元**のおいしい食べ物、地元にはかない慣習、料理、食べ物などを紹介することが出来る。

第 15 回日経 STOCK リーグ 表彰式&懇親会

(4) 何人かで共同して論文を書くことの重要性

一人で勉強するばかりでなく、何人かの生徒と一緒にあって、研究することは、将来の社会人としての基礎にもなると考える。複数の同級生と一緒に論文を仕上げることにより、一人だけで考え、行動するよりも、議論を深め、論文の質を高めることが出来る。上手く手分けをすることによって、能率も上がる。また、本やインターネットで調べるだけでなく、企業の現場を訪問したり、電話で質問したりすれば、自分たちの疑問に答えが与えられることもある。また、いろいろな人たちの努力によって、今日の日本社会が出来上がっていることに感謝することを忘れないでほしい。

(5) 日本経済の回復とグローバル化への対応

高齢化が、日本の経済に大きな影響を与えている。働く人の数が減少し、社会保障・年金に頼る人が増えれば、働く人の負担は増大し、経済の生産高は減少してしまう。元気な高齢者の人に、なるべく長く働いてもらい、年金に頼らないようにし、若い人と高齢者が一緒にあって働くことにより、互いの弱点を補えるようになれば、生産性も向上する。高齢者が働くと若者の雇用機会を奪ってしまうという意見もあるが、両者が補完関係となるように職場を変えていくことが必要である。また、年功序列の給与体系（＝年を取ると給与が上がる制度）を採用している企業が多いが、それぞれの生産性に応じて給与が決まるようにすれば、高齢者を雇用したいという企業も増えるはずである。（吉野直行「日本経済の真実を語ろう」東京書籍）

グローバル化については、「英語」など、外国語を話せるだけでは、通用しない。自分のやっている内容

第 15 回日経 STOCK リーグ 表彰式&懇親会

をしっかり勉強していないと、上辺だけの挨拶しか話せなくなってしまう。相手が望んでいるのは、「深い内容」であり、議論が出来る人間である。海外で、いろいろな国の大臣の前で講演する時には、それぞれの外国の大臣が、「どのような事柄に興味を持ち、どのような問題の解決を望んでいるのか」をつかんで、それに答えられる講演をすることが必要である。海外の大学で講義をする際には、それぞれの国の学生が、どのような経済問題に関心があるのかを見極めて、講義をすると、学生が一生懸命に聞いてくれる。今週のシンガポールでの PECC の夕食会の私の講演では、その日の一日の議論から、参加していた各大臣がどのような経済問題を抱えているのかを聞いて、自分の用意した原稿を修正し、アジア各国の抱える経済問題に対して、自分なりの意見を付け加えたところ、とても喜ばれた。日本経済のことを十分に勉強することによって、アジア各国への提案をすることが可能となった。実は、今日（=土曜日）も、南米コロンビアで講演を行う予定ですが、南アメリカ経済の抱える諸問題を二日間の会議で勉強し、それに答えられる講演をしたいと思っている。

本日は、表彰式に出席できず、申し訳ありませんでした。越智大臣政務官、審査委員の先生方のお話もよく聞いて、皆さんには、立派な人間に成長していただき、日本を支えられる人間になってほしいと思っています。